

ヘルプステーションだいとう だより

No.2 2003年7月発行



「療養」はみんなの課題、
それを「訪問介護」が支え、実現する

だいとう循環器クリニック 理事長
大頭 信義

平均寿命は、とくかく世界一

日本人の平均寿命はまだ伸びています。昨年度のデータでは、平均寿命が男性では 78.1 才、女性は 84.9 才に達しました。いずれも世界最高の数字です。この日本で、本当に寿命が世界一なんて考えてみれば不思議な事ですね。いくつも幸運な条件が重なっているのでしょうか。

気候が温暖である、国民の教育レベルが高い、同一民族である…その他にも医療保険が利用しやすいなども重要な要因でしょう。

在宅療養をめぐる環境は

目立って高齢者が増えてきました。65 才以上の「老人」の割合が 18%を超えました。この傾向はますます増えるでしょう。

それとともに、疾患を持ち、療養を必要とする市民の数も増えて参ります。

それは次のような傾向が強くなるからです。

1. 高齢者の生活が長くなった。

誰にとっても「高齢期をどう過ごすか」が問題となってきた。

2. 高齢者には、病が多い。

3. 慢性疾患が増加し、療養が長期化するようになってきた。

つまり、病気を持つ人が増え、さらに療養期間が長くなって来たのです。

日経 02.8.1 号より

ところが、これに対応する条件は悪化しているのです。独居者の世帯が多くなりました。それに伴って専従主婦や同居する若者が減少して、療養が必要になってもこれを介護することが難しくなってきました。

そして一方、市民の側では、人権意識が強くなり、医療の現場でも自分の選択を重視する風潮が高まり、自立して暮らしたいという願望も増大しているようです。

「介護の社会化」の必要性が現実になってきた

自宅で療養したい。でも、数少ない家族に多大の世話をかけなければ実現できないということも良くわかっていて家族に依頼するのに躊躇する。さらには、独居生活であるために療養が必要になっても介護を得ることが出来ない。こんな事情を軽減・解決するために、介護保険が生まれ、そのもとでのヘルパーによる訪問介護がスタートしました。在宅療養を支える「介護の社会化」の中心的な部分を担当するのがヘルパーです。今後の高齢化社会を支援する中心部隊として、さらにはもっと若くして療養支援の必要な様々な種類の「障害者」への支援も視野に入れながら自己の仕事の重要性を考えていきましょう。

おむつ

— 5月25日ミーティングより —

私たちの事業所では毎月一回のミーティングでヘルパーの勉強会を行っています。5月の勉強会では、五大薬局田寺店様より講師をお招きして、「おむつの正しい理解」についての講義と実技を行いました。おむつ使用上の問題点を質問した結果・・・

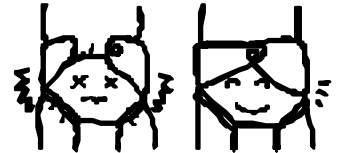


紙おむつ使用の場合

- ◎ ヒップサイズを目安にして購入する。
- ◎ 背中もれが気になる場合は、ウエストにギャザー付きの方がフィットしやすい。
- ◎ 横漏れが気になる場合は、太股のギャザーを立てておく。
(メーカーによってギャザーの高さが異なります。)

はくパンツ使用の場合

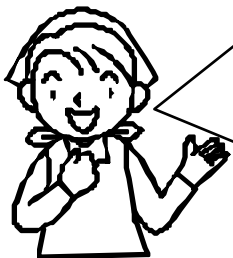
- ◎ 使用する時は前後のはき間違いに注意する。
- ◎ 横漏れ・背中漏れはウエストサイズで合わせれば横漏れの防止になる。



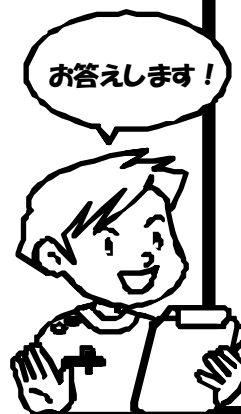
かゆみ・かぶれやすい場合



- ◎ 皮膚の弱い人はギャザーでかぶれる事もあるので、足の付け根にギャザーなしの小パットを使って下さい。
- ◎ 蒸れは通気性の良いパットを使用すると湿気だけを通してくれます。



Q:テープ止めおむつでお腹が大きく、足が細い方で、テープを斜めに引き上げる様に止めても、お腹と足のサイズの幅が大きすぎて足の隙間から漏れてしまう。どうしたらいいでしょうか？



A:足のまわりのギャザーの高さがメーカーによって差があるので中のパットを吸収性の高いもの(吸収スピードが早い)を使ってみる。パットとおむつの間にフィットタイプのおむつを使う。(股の隙間を埋める感覚)

これからの時期暑くなってきますので、おむつカブレが起こりやすくなってきます。排泄後は出来るだけ早く交換し、おむつの内部の湿気を外に逃がす、通気性のある紙おむつの使用も効果的です。肌を清潔にする事も大切ですので、お湯を使っての陰部洗浄や蒸しタオルで尿路感染を防ぐ為に、お腹側からお尻側に拭いて下さい。

指導・コメント 五大薬局 田寺店

先田口 智美 様より



利用者様の声



平成12年4月介護保険開始の最初からだいとうさんの利用者にお仲間入りをさせていただき、要介護認定5の主人のために5名のヘルパーさんが交替で親身にお世話をして下さいました。初めて、田中さん、吉田さん、金山さんとお会いしてケアプランを決めた時点で、他人を家に招いて、主人の反応がどうかという不安は、大きなものがありました。でも、費用の点も受ける側は、一割負担との有難い制度で老々介護の私としては、何よりの救いでもありました。

そして現在、要介護認定1で歩行困難、腰痛の私は主人亡き今もヘルパーさんの手助けを受けての生活ですが、人と人とのつながりに心を通わせ合って、毎日感謝の日を送らせていただいております。私の体験から見て、お仕事とはいえ十人十色様々な利用者が居り、事務所の皆様、実務をなさるヘルパーさん方のご苦勞は十分に察しられます。忙しくて疲れてしんどい日もあるでしょう。でも、若い人の「おはようさん、こんにちは」との元気な笑顔の声掛けは老人には何よりの薬です。

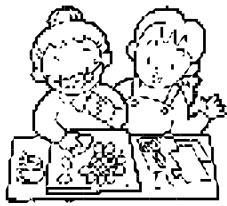
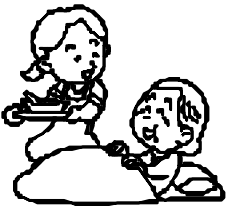
先行き不安の多い現在ですが、この制度は、利用者本人はもとより家族にとっても本当に有難い制度とつくづく思います。

大頭先生をはじめ、皆様の益々の御健勝、御発展を心よりお祈り申し上げます。

O. Y様



ヘルパーからの一言



ステーション発足から3年余り、1年目は無我夢中で休む間もなく業務を遂行してきました。2年目は、日々業務を消化することで終わり、3年目になって、様々な疑問にぶつかりどのように接して行けば良いのだろうと悩む日々ですが、人生の先輩から様々な知識をいただき一歩ずつ前進する今日この頃です。

ヘルパー寺脇百合子

介護保険開始よりステーションも共に4才を迎えようとしています。子供では、幼児期より両親、友達、周辺の方々と触れ、交わりを持ちながら成長していきますが、私共も、医療者、利用者とその家族や関係者の皆さんの情報を得ながら“ひやり・ハツト”しながら業務施行してまいりました。今だ緊急時の処置の不安は消えません。在宅介護を支える立場に有り、“どうして！なんで！”「家族の求められる介護の手がスムーズに差しのべられないものか。」専門職としての技術と知識、理念に、さらに磨きをかけ満足していただける介護が出来るよう、自問自答を繰り返し、日々邁進しております。

ヘルパー藤井美智子

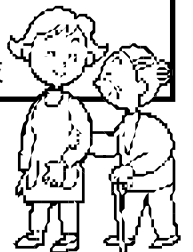
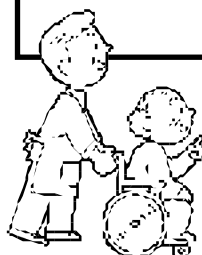


当初は、少人数でアットホームだったミーティングも回を重ねるごとに、メンバーも増え、内容もレベルアップしてきました。特に、事例検討、グループワークなど、全体で考えることによって、問題点の把握、対応は、どうすべきかなどかなり勉強になりました。これからも利用者の方を第一に考えながら、笑顔で、この仕事を続けていきたいと思っております。

ヘルパー中谷喜代美

介護保険が始まって早3年目。当初、利用者の方に話しかける言葉に、ぎこちなさがありました。今日では、どなたにでも笑顔で接することができるようになりました。自立支援とはいえ、「日によって体調が違う方」「見た目には判り難い健康状態の方」「体力低下による日常生活への不安を持たれている方」それぞれの不安を抱えている方々が、住み慣れた場所で心楽しく生活できるようにお手伝い出来る事が、私の喜びと思っております。

ヘルパー小林文枝



ヒヤリ・ハッと!



おむつ交換時・・・

おむつ交換時、ベッドのコントローラーが自分の太股にあたり動いてしまった。ベッドが上下に動いたため事故にはつながらないが、利用者はいつも健手を横の柵に掛けられているので、頭部が上がるスイッチであつたら腕を痛められたかもしれない。

コントローラーの位置を確認し、利用者への声掛けや柵に手を掛けられていないかしっかり確認する。介助の前に、置いてある物を動かすなど、ベッドまわりに注意する習慣をつけて、事故につながらないように注意をはらうようにしましょう。



入浴時・・・

温度設定のできるシャワーを使用中、急激に温度が上がったり下がったりした。利用者にお湯をかけている最中だったのでヒヤリとした。

シャワーの柄を持たずに、手にお湯がかかるようにシャワーのヘッドを持ち、シャワーぐちから出てくるお湯の温度を手で確認しながら行うようにする。火傷等事故にはつながらなくても、熱い冷たいと感じるのはその時々によるので、細かく対応していくようにしましょう。

「ヘルパーステーションだいとう
ヒヤリ・ハッと集」より



伝言板



梅雨が終われば暑い日が続く、体調を崩しやすいので気を付けて下さい。

今回掲載に御協力下さいました方々、ありがとうございました。

今後もたくさんの事を掲載していきたいと思っておりますので、御協力の程よろしくお願ひします。

・ 私たちの基本理念 ・

私たちは日常生活の支援を通してその人がその人らしくあることを守ります。

ヘルパーステーションだいとう

〒670-0962

姫路市南駅前町66番地 戸田ビル2階

TEL 0792-23-5009

FAX 0792-23-5019

介護保険事業所番号 2874000876